

## 【中学校】 学校規模の適正化に関する基本的な考え方

## 適正規模の基準

適正規模の基準	12～18 学級（1 学年 4～6 学級）
	○一定規模のクラス替えにより子どもたちの人間関係の構築及び切磋琢磨による伸長を促すことができる。 ○一定数の教員を確保することにより協同した指導方法等の研究を可能にする。
適正規模の許容範囲 （適正規模に準じる学級数）	上限/下限：±6 学級 〔6～24 学級（1 学年 2～8 学級）〕
	上限：適正規模を超えるが、全学年が 8 学級以下を維持できる場合 下限：適正規模を下回るが、全学年が 2 学級を維持できる場合 ○子どもたちの人間関係の構築や交流に配慮し、クラス替え可能な規模とする。 ○大規模校の場合、教室数やグラウンドなど施設利用面を十分考慮する。

## 学校規模の適正化を検討する学校

上記の適正規模の基準表に現時点での各学校の学級数を照らし合わせると、検討対象校には、大規模校として宮郷中学校のみがあげられます。また、境北中学校及び境西中学校が適正規模の許容範囲の境界近くに位置づけられます。

それぞれの学校の現状や将来見通しを分析しますと、次のようなことがわかります。

学校名	平成 26 年度		平成 31 年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
宮郷中学校	915 人	25 学級	800 人	22 学級
境北中学校	215 人	7 学級	214 人	7 学級
境西中学校	235 人	7 学級	184 人	6 学級

## 資料 2 - 1

### 《宮郷中学校》

○現状では適正規模から外れていますが、将来推計をみますと、生徒数及び学級数は減少し平成 31 年度には適正規模の許容範囲に入る見通しです。

○

⇒中学校の生徒数は、一部の地域で差はあるものの平成 28 年度にピークを向かえ、その後減少に転じる傾向にあるため、現時点では学校規模の適正化の検討に入る必要はないと考えます。

### 《境北中学校・境西中学校》

○将来推計をみますと、境北中学校の生徒数はほぼ同規模で推移し、境西中学校は減少の一途をたどる見通しです。

○両校ともにクラス替えが可能な 6 学級は維持でき、適正規模の許容範囲に収まる見通しですが、部活動における競技種目に制限が生じています。

⇒生徒や保護者をはじめ地域住民の考えを踏まえつつ、生徒数の動向に十分に注視し、他地区の中学校とのバランスを図るべく学校規模の適正化の検討に入る時期を見極める必要があります。

### 検討結果

--